

ご挨拶



豊橋技術科学大学 教授
未来ビークルシティリサーチセンター

センター長 三浦 純

当センターは、前身である未来ビークルリサーチセンターの活動を引き継ぎ、文部科学省特別経費「サステナブルな社会における未来ビークルシティ事業：低炭素社会における安全・安心なビークルシティ」により、前センターを継続する形で改組され、2016年度から事業を開始しました。それ以来、未来ビークルシティの実現に向け、「低炭素社会と産業育成コア」「低炭素社会と安全・安心コア」「低炭素社会と先端省エネルギーコア」の三つのコアを軸に研究に取り組んできました。具体的には、ワイヤレス給電、新しい電池技術、自動車の知能化、ワイヤレス情報通信、予防安全、交通マネジメント、未来ビークル普及の社会経済への影響評価などの研究を進めてきました。その中でも、ワイヤレス給電技術と交通マネジメントは近年の中心的な課題となっており、前者では内閣府・国土交通省のCART事業や企業との共同研究、後者では豊橋市や湖西市などの自治体との連携を通じて、研究成果の社会実装に取り組んできました。また、本学と企業がマッチングファンド方式で実施するイノベーション協働研究プロジェクトの枠組みも活用し、多方面から研究開発を推進してきました。

本学では2023年4月1日、従来のエレクトロニクス先端融合研究所（EIIRIS）を機能強化し、新たに次世代半導体・センサ科学研究所（IRES²）を設立しました。本学の強みである半導体技術・センシング技術と各種応用分野との融合研究を通じた社会実装の推進や、国内外の課題解決への貢献を目的としています。当センターからも一部の研究者がIRES²社会実装部門の次世代モビリティ社会部門に参画し、最先端センシング技術の応用に取り組んでいます。一方、本学では2025年度に向け、リサーチセンターのあり方を検討しており、従来型のリサーチセンターに加え、独創的な研究や異分野融合研究、さらには他機関の研究者との協働を、よりタイムリーかつ柔軟に行うための新たなリサーチセンター制度の導入が決定しています。当センターでは、こうした状況の変化も踏まえ、本年度をもって現在の形での活動を終了することといたしました。これまで当センターの活動をご指導・ご支援いただきました皆様に、心より御礼申し上げます。

なお、未来ビークルシティリサーチセンターとしての活動は終了いたしますが、当センターが掲げてきた「低炭素社会」や「安全・安心社会」の構築は、引き続き日本の重要課題であり、各構成員は今後も関連する基盤技術や応用技術の研究開発を推進してまいります。本報告書は、2024年度の研究成果をまとめたものです。ぜひご高覧いただき、今後とも変わらぬご指導・ご鞭撻のほど、よろしく願い申し上げます。